

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

理血剂 止血剂 8

おうどとう  
黄土湯

温陽健脾・養血止血

甘草・生地黄・白朮・附子・阿膠・黄芩各9g・灶心黄土60g

まず灶心黄土を水煎して煎湯を取り、他薬をこの煎湯で煎じ、阿膠を溶かして服用する。

金匱要略

<主治>

脾陽不足、気不摂血

血便、吐血、鼻出血、不正性器出血があり出血色が暗淡、四肢の冷え、顔色が萎黄、舌質が淡、舌苔が白、脈が沈細で無力などを伴う。

<病機>

脾陽不足で摂血できずに血が溢出する病態で、陰血不足を伴っている。

脾陽不足で脾気が血を統摂できなくなり、上溢すると吐血、衄血（鼻出血）が、下溢すると血便、崩漏（不正性器出血）が現われ、慢性的に出血が続く。陽気不足の虚寒により、四肢の冷え、舌苔が白、脈が沈で無力、出血色が暗などを呈する。脾陽不足で生血ができず、慢性の出血で血が耗損するために、陰血が不足して顔色が萎黄、出血色が淡、舌質が淡、脈が細などがみられる。

<方意>

温陽健脾により摂血し、兼ねて陰血を補う。

主薬は灶心黄土（伏竜肝）で、温中すると共に収澁止血に働く。温陽健脾の附子・白朮がこれを補佐し、脾陽を健運し脾気を強めて血の統摂を回復する。生地黄・阿膠は滋陰養血すると同時に止血し、苦寒の黄芩と共に附子・白朮の温燥を制約する。また附子・白朮は生地黄・阿膠を滋膩呆滞させない。甘草は諸薬を調和し和中する。全体で温陽止血して傷陰せず、滋陰養血して脾陽を阻滞せず、温脾止血の効果が得られる。

<参考>

下血に限らず、陽虚の出血全般に適用する。